

軽井沢町議会

議長 市村 守 様

会派 公明党

代表 篠原 公子

報告者 篠原 公子

平成29年度 会派視察報告書

1 研修日程 及び 会場

平成29年10月2日（月） （Ⅰ）10：00～12：30

（Ⅱ）14：00～16：30

東京（八重洲通り） カンファレンスセンター

2 研修テーマ 及び 講師

（Ⅰ）地域消滅の時代における医療・介護を考える

（Ⅱ）少子高齢社会における女性の健康政策を考える

【講師】 城西大学経営学部教授 伊関 友伸
NPO法人HAP理事長 宮原富士子

3 研修参加者

篠原 公子 （1名）

4 研修概要

（Ⅰ）人口減少社会における持続可能な医療・介護を考える

- ①これから都市・地方に起きる深刻な医師・看護師・介護士等の不足
- ・2025年に向けて急激に社会変化が進むが、爆発的な高齢者の増加に対しマンパワーや入院病床・介護施設などの医療・介護資源が不足することが予想される

②医師・看護師・介護士等不足の原因は何か

- ・医師不足は地方の中小病院を中心に深刻な状況にある。
- ・医療の高度・専門化（複数の専門科の医師が一人の患者の疾病を見る時代となっている）
- ・インフォームドコンセントの導入など医師の仕事が増えている

- ・女性医師は年々増加しているが、出産、子育てで臨床の現場から離なれる人が多い（女性医師が働きやすい環境が必要）
- ・急性期を指向する医師は、高度・専門化に対応し医師数の多い病院に集まる（医師の集まる病院に、さらに医師が集まる構造）
- ・病院の2極化現象（成長する病院と衰退する病院）
- ・特に200床以下の病院は医師が集まらない（データより）
- ・国民の医療への不理解 等々

③自治体における医療・介護の命運を握る「人材育成」の重要性

- ・若者の減少が進み、看護師・介護士の不足が深刻化する
- ・研修機能の充実（研修力のない病院には若手医師も看護師も勤務しない）
- ・若い人を使い潰しにしない

④地域医療再生における地方議会議員の役割

- ・自治体病院の存続の危機の時代に地方議会議員の果たすべき役割は大きい。病院の足を引っ張る議員が多いのも実情である。医師確保に奔走されている院長に対して、応援でなく、無能発言をする議員の暴言で、医師の退職につながっている事例を紹介
「懸命に努力し、頑張ってきたが精神的にも疲れ燃え尽きた」・・・
（T病院院長、退職の理由）
- ・住民が「当事者」として地域のこれからの考え行動をすることが必要

要

（Ⅱ）少子高齢社会における女性の健康政策を考える

①間違いだらけの女性の健康政策

- ・高齢化問題は、女性の健康・医療・介護の問題でもある
数の上でも、独居高齢者は男性よりも女性が多く増加している

②女性の健康づくりは介護問題と一体のもの

- ・女性の健康状態が医療や介護に影響してくる
- ・高齢になってからでなく、若い時代からの健康づくりが大事
- ・早く気づき、正しく介入することが大切

③これからの自治体政策のキーワード「ロコモ予防」とは

- ・介護が必要となった主な原因は運動器の障害で、全体の36.1%

町民一人一人が運動器の維持に対して関心に向け、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を予防するための運動習慣の推奨

④更年期女性のヘルスプロモーションを考える（宮原富士子）

- ・女性の健康力
- ・健康寿命の延長
- ・ロコモ・骨粗鬆症・サルコペニア
- ・食生活と食習慣
- ・コンチネンスケア
- ・おくすり
- ・生き方の選択 について等々

5 考察

軽井沢病院は、平成 14 年、現在の場所に新築移転し 15 年を経過しているが、一貫して医師不足という課題を抱えながら今日に至っている。病院側からも、「軽井沢病院新改革プラン」（平成 29 年度～平成 32 年度）が示されており、社会常任委員会としても「病院の医師不足は、喫緊の課題」と捉え“町民に期待され、信頼される病院”をめざし研究をはじめた次第である。

本日講師の伊関先生は、総務省の公立病院改革の中で数多くの検討委員会に所属し研究されている第一人者である。

前掲のように、統計に基づき、様々な事例を示していただき参考になった。

【研修 I】

伊関先生のタブレットには全国の自治体病院のデータが入っている。軽井沢病院に対するご意見も伺った。

- ・運営形態を見直すのであれば、まずは「町立病院」の体制を維持したままできる「公営企業法全部適用」であろうと
- ・医師獲得は大学病院との連携が不可欠
- ・「寄付講座」という制度の利用 等々

いづれにしても、国際保健休養地を標榜する軽井沢町に、町立病院はなくてはならないものとする。医師不足の問題も病院に任せるだけで解決するものではない。前掲の事例のような「懸命に努力し、頑張ってきたが精神的にも疲れ燃え尽きた」ということが、決してあってはならない。

病院スタッフのモチベーションを上げ、利用者からも信頼され満足される病院であるために、様々な声を聴取しながら研究を続けていきたい。

【研修Ⅱ】

女性の健康政策については、冒頭、伊関先生より①～③までのお話があり、その後、NPO法人HAP理事長・薬剤師の宮原富士子さんより様々な事例に基づき「女性の健康づくり政策の重要性」について講演があった。

平成19年4月に策定された「新健康フロンティア戦略」において「女性の健康力」が柱の一つに位置付けられ、その一文に次のようにある。

【女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすためには、生活の場（家庭、地域、職域、学校）を通じて、女性の様々な健康問題を社会全体で総合的に支援することが重要とされ、厚生労働省では、毎年3月1日から3月8日までを「女性の健康週間」と定め、女性の健康づくりを国民運動として展開することとしている】

私自身、今まで様々な講演を受講したが、今回の宮原富士子氏のような内容は初めてで大変感銘を受けた。研修を受講して、いかに「女性の健康力」が重要であるか改めて認識するとともに、若い世代への健康教育が必要であることを強く感じた。

当町においても、高齢者に対する健康講座はよく実施されているが、今後、特にこれから結婚をし、子どもを産み育てる若い女性への健康講座は大切である。また、女子中学生対象に実施することも大変役に立つことと思う。

少子高齢社会、なによりも女性の健康管理の重要性を改めて実感した。